



米国大学における 専門職人材育成カリキュラムを 適用した日本型プログラムの実践

山形大学 学術研究院 教授

藤原 宏司

明治大学
研究推進部 研究知財事務室
山本 幸一

人材育成学会 第21回年次大会

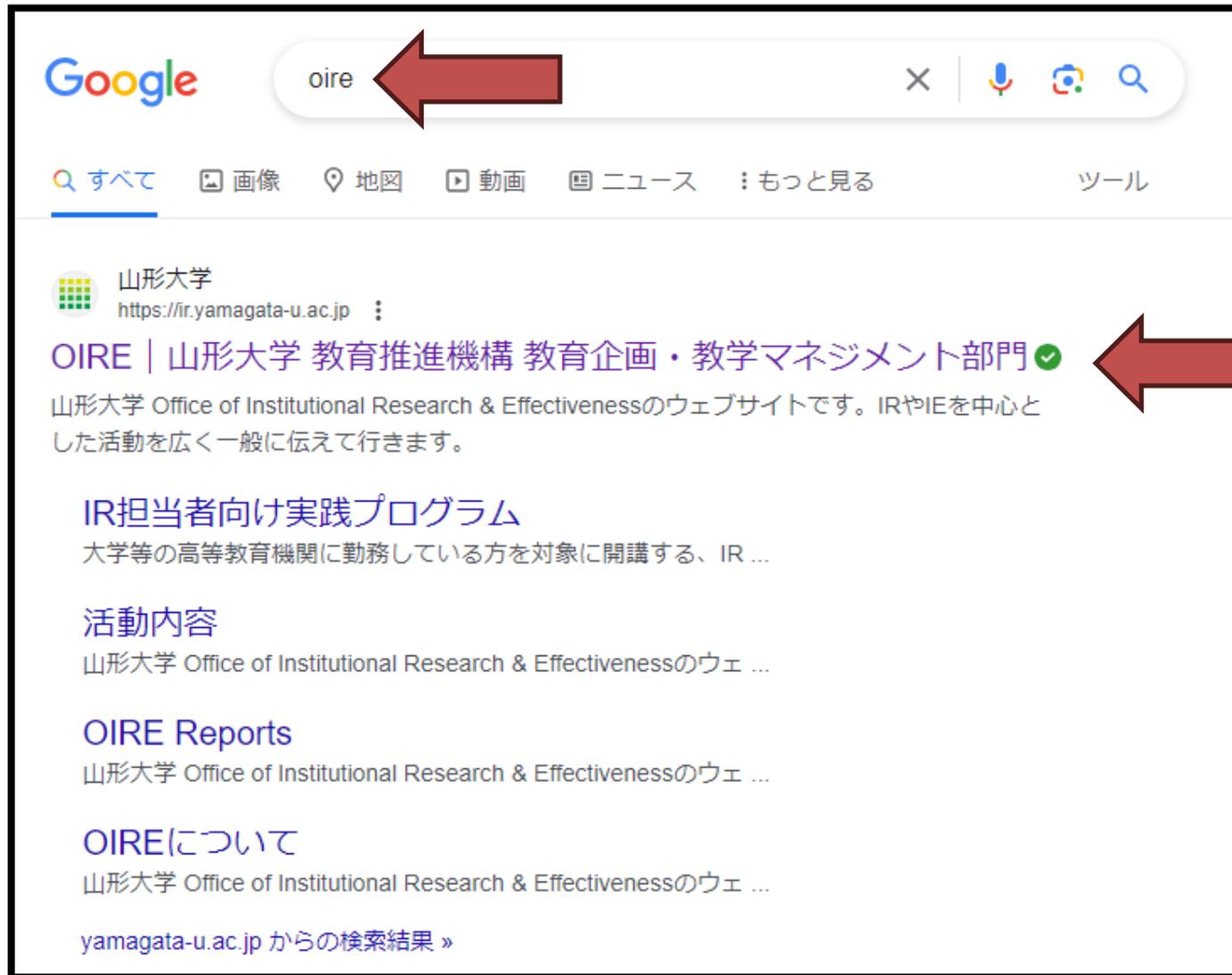
2023.12.10 @ 長野県立大学 三輪キャンパス

スライドの配布について

山形大学では、SDGsの観点から、発表スライドをオンラインで公開しています



スライドの場所 : oireで検索



The screenshot shows a Google search interface. The search bar contains the text "oire" with a red arrow pointing to it from the right. Below the search bar, there are navigation tabs for "すべて", "画像", "地図", "動画", "ニュース", and "もっと見る". The search results are displayed below, with the top result being "山形大学" (Yamagata University) with the URL "https://ir.yamagata-u.ac.jp". The main title of the result is "OIRE | 山形大学 教育推進機構 教育企画・教学マネジメント部門" with a green checkmark. A red arrow points to this title from the right. Below the title, there is a brief description: "山形大学 Office of Institutional Research & Effectivenessのウェブサイトです。IRやIEを中心とした活動を広く一般に伝えて行きます。". There are four sub-sections listed: "IR担当者向け実践プログラム", "活動内容", "OIRE Reports", and "OIREについて", each with a brief description. At the bottom, there is a link "yamagata-u.ac.jp からの検索結果 »".

Google

oire

すべて 画像 地図 動画 ニュース もっと見る ツール

山形大学
https://ir.yamagata-u.ac.jp

OIRE | 山形大学 教育推進機構 教育企画・教学マネジメント部門 ✓

山形大学 Office of Institutional Research & Effectivenessのウェブサイトです。IRやIEを中心とした活動を広く一般に伝えて行きます。

IR担当者向け実践プログラム
大学等の高等教育機関に勤務している方を対象に開講する、IR ...

活動内容
山形大学 Office of Institutional Research & Effectivenessのウェ ...

OIRE Reports
山形大学 Office of Institutional Research & Effectivenessのウェ ...

OIREについて
山形大学 Office of Institutional Research & Effectivenessのウェ ...

yamagata-u.ac.jp からの検索結果 »

「発表資料」をクリック



OIRE

OIREについて IR担当者向け実践プログラム 活動内容 **発表資料** 山形大学 Yamagata University

山形大学 教育推進機構
教育企画・教学マネジメント部門
Office of Institutional Research & Effectiveness (OIRE)

「学会」をクリック



OIREについて

IR担当者向け実践プログラム

活動内容

発表資料



発表資料

招待 ▾

学会 ▾

発表内容



発表内容

1. IR（Institutional Research）とは何か
2. IR（Institutional Research）担当者に必要な知識・経験
3. 日米の大学における人事制度
4. 山形大学「IR（Institutional Research）担当者向け実践プログラム」について
5. 今後の課題

IR (Institutional Research) とは何か



IR (Institutional Research) とは

- ✓ 「**I**nstitutional **R**esearch (IR) 」とは、
大学等の教育機関における計画立案、政策形成、
意思決定等の**サポート**に資する**情報提供**を目的とした、
学内外データの収集・分析・可視化機能のこと

重要なポイント

- 「Institutional Research (IR)」とは、**米国の大学**で生まれ、発展してきた機能
- 米国の大学には、IR機能を担う「**専門部署**」があり、IR業務を担当する「**専門家**」がいる
- 米国の大学におけるIR部署は、組織的に**学長・執行部から近い**ところにある
- 日本では、**様々な**研究者、実務担当者等による「**独自の解釈**」が紹介・議論されている傾向が見られる

データの収集・分析・可視化の代表例（1）

- ✓ 高校別志願者・合格者・入学者の経年比較
- ✓ 各種アンケート調査の実施・結果集計・レポート作成
- ✓ 卒業率・留年率等に関する分析（含：退学者予測）
- ✓ 科目別成績に関する分析
- ✓ 入試に関する分析
- ✓ 人件費に関する分析（→ 詳しくは口頭で）

データの収集・分析・可視化の代表例（2）

✓ BI（Business Intelligence）レポート等の作成

都道府県別大学入学者：他県からの流入 vs. 他県への流出（学校基本調査）

年度
2022

大学の所在地（都道府県...）

- 15新潟県
- 16富山県
- 17石川県
- 18福井県
- 19山梨県
- 20長野県
- 21岐阜県
- 22静岡県

大学の所在地方

- すべて選択
- 02東北地方
- 04中部地方

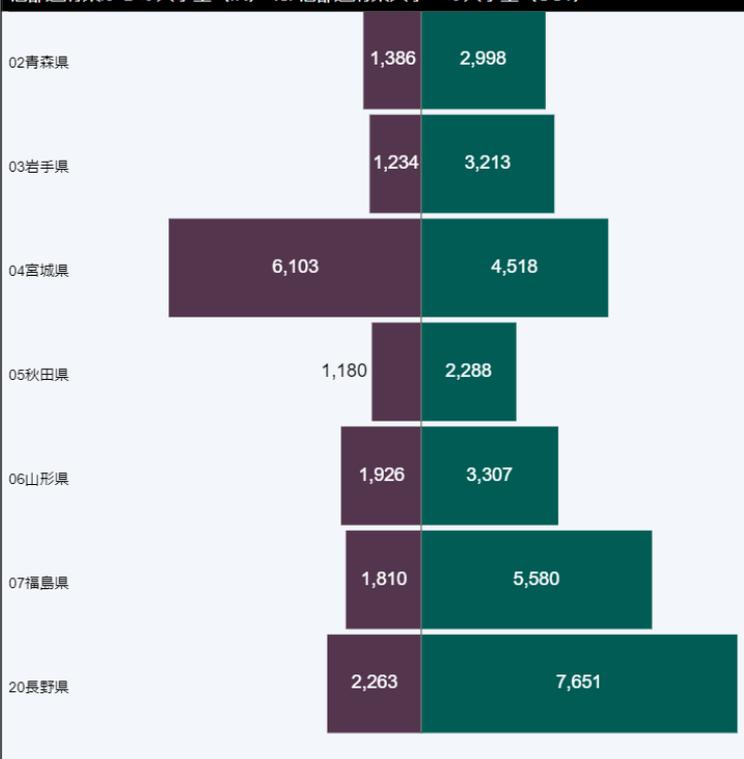
性別

- すべて選択
- 1男性
- 2女性

他都道府県からの入学生 (IN)

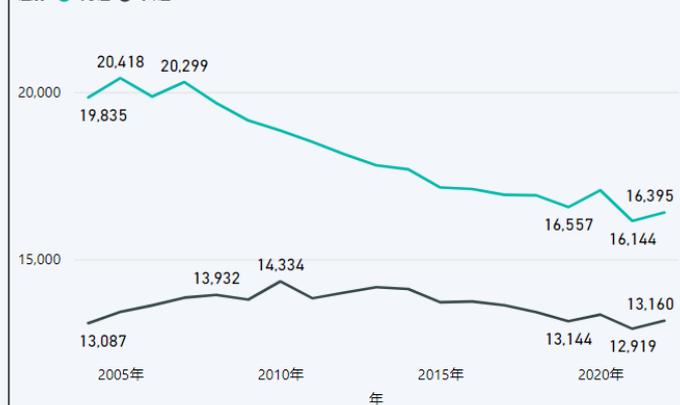
他都道府県大学への入学生 (OUT)

他都道府県からの入学生 (IN) vs. 他都道府県大学への入学生 (OUT)

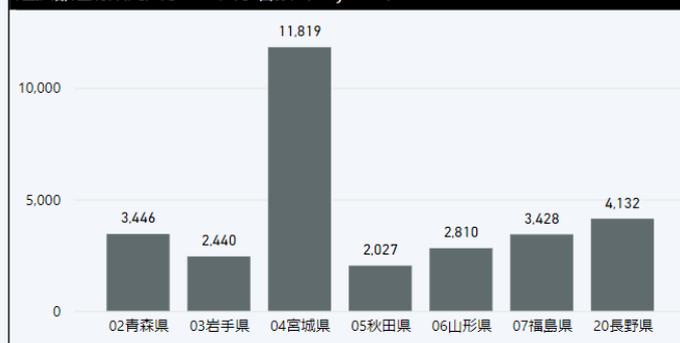


他都道府県大学への入学者数 (OUT)

性別 ● 1男性 ● 2女性



選択都道府県内大学への入学者数 (Stay + IN)



作成者：藤原宏司（山形大学）

IR (Institutional Research) 担当者に 必要な知識・経験



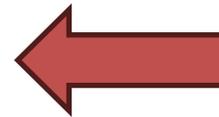
IR担当者に必要な知識・経験

■ 「米国」における大学教職員求人情報から整理

A) データベース操作の知識や作業経験

B) 統計・データ解析の知識や経験

C) 高等教育機関で働いた経験



履修証明プログラム等の修了
で本条件がクリアできる
(TA、RAでOKの場合も)

D) コミュニケーションスキル

米国大学によるIR人材育成カリキュラム

■ フロリダ州立大学大学院「IR履修証明プログラム」によるカリキュラム※

分野	科目名	単位	必修/選択
IR 入門	EDH 5055: Introduction to Institutional Research	3	必修
IR 応用	EDH 5042: Student Success in College	3	4 科目 12 単 位を選択履修 する
	EDH 5068: Outcomes of Undergraduate Education	3	
データ分析	EDH 5645: Data-Driven Decision Making for Institutional Research	3	
	EDH 5646: Data Mining	3	
	EDH 5647: Data Analysis for Institutional Research	3	
IR 実践	EDH 5941: IR Practicum	3	必修

※ 発表者が受講していた当時のカリキュラム（6科目18単位）

2023年度時点では、5科目**15単位**で運営されている

現在の**授業料**は、**約240万円**（\$1 = 150円で計算）

他大学におけるカリキュラム構成（履修証明プログラム）

区分	大学名（アルファベット順）	カリキュラム分野 ^a			
		IR入門	IR応用	データ分析	IR実践
藤原ほか（2019） で紹介	アリゾナ州立大学			○	
	ポストンカレッジ		○	○	
	インディアナ大学	○	○	○	○
	ケント州立大学		○	○	
	イリノイ大学シカゴ校		△	○	
藤原（2015）で紹介	ボール州立大学	○	△	○	○
	フロリダ州立大学	○	○	○	○
	ペンシルベニア州立大学	○	○	○	
	サム・ヒューストン州立大学		○	○	
	ウィスコンシン大学スタウト校	○	○	○	○

^a 「○」は、その分野の科目が必須、「△」は必須では無いがその分野の科目が受講できることを意味する。

Note: 大学院レベルで提供されており、かつ、科目内容が公開されている大学の履修証明プログラムを対象に調査した

日米の大学における人事制度



日米の大学における人事制度比較

項目	日本の大学	米国の大学
採用方法	新卒一括採用	通年採用
採用担当部署	人事部	人材が必要な部署
人事異動	あり	なし
終身雇用制度	あり	なし (除：テニユア教員※)
解雇・労働契約の解消	難しい	容易 (at-will employment)
年功序列制度	あり	なし
専門職採用	あり (+人事異動)	全員が専門職採用
執行部の任期	あり	なし

■ 米国大学における人事部の主な役割

- 各部署が実施する採用活動における**コンプライアンスチェック**
- 新規採用者、退職者等に必要な**諸手続きのサポート**

米国大学における大学職員：全員が専門職

- 米国の大学職員は、全員が**専門職採用（ジョブ型）**
 - ✓ 採用は原則、公募
 - ✓ 年功序列における**自動的な昇進制度はない**
 - ✓ **昇進するためには？ → 公募をパスすることが必要**
 - ポジションに見合った**学位等も必要**
 - IRオフィスのディレクターに限らず、**主要オフィスの責任者（部課長・室長レベル）は、「少なくとも」修士号は持っており、博士号所持者も珍しくはない**
 - ✓ 上のポジションに行かなければ、何十年勤務しても給料に上限がある → **「学び直し」の原動力？**

米国大学における給与制度：教職員（時間があれば）

- 教員、職員ともに、**採用時の給料や給与表が、採用の難易度や採用部署**によって大きく異なる
- 教員：同じ学位（Ph.D.）、同じ勤務年数でも、所属学科（専門）が異なれば、給料も異なる
- 職員：採用部署によっては、准教授クラスよりも給料が高い一般職員もいる
 - 採用されるには、その部署が**必要としている知識・スキル・経験を予め持っていることが前提**
 - **アマチュアは採用されない**
 - **ポジションに応じたスキルの学習が必須（学び直し）**

日本の大学におけるIR担当者を取り巻く環境

- 日本の大学では、IR担当者が**定期的に入れ替わり**、
「データベースの操作」や「統計・データ解析」等の
スキルを持たない「IR未経験者」が、
IRオフィスへ配属され続けているケースが見られる
- このことは、IR業務における
「**即応性**」「**効率性**」「**再現性**」「**継続性**」等の
問題につながるのではなかろうか

IR未経験者へのサポート

- 様々な団体等が、**短期**の講習会や研修会を開催
 - **扱う内容**：IR担当者としての**心構え**、IRに関する**概念**
 - **実践的な職業能力（スキル）を涵養する機会が少ない**
 - しかし、実践的職業能力を「**短期間で涵養**」することは困難
 - **ある程度の学習時間**と、**体系的なカリキュラム**によるIR人材育成が必要では？
- **【我々の動機】IR人材育成プログラム開発へ**
 - **プログラム名：IR担当者向け実践プログラム**

山形大学「IR担当者向け実践プログラム」 について



山形大学「IR担当者向け実践プログラム」

- 明治大学との包括協定の一貫として、**2020年度から開講**
 - 他大学において、IRの実務経験を持つ教職員の方々も講師として協力いただいています
- 現在、2023年度（第5期）が終了
 - 現時点での修了者総数は、51名
- **学校教育法**に基づく学部レベルにおける日本初の**履修証明プログラム**
 - 文部科学省より、令和4年度「職業実践力育成プログラム」（BP）の認定を受けています

- 「履修証明書」と講習会等で貰える「受講証明書」は異なるものです

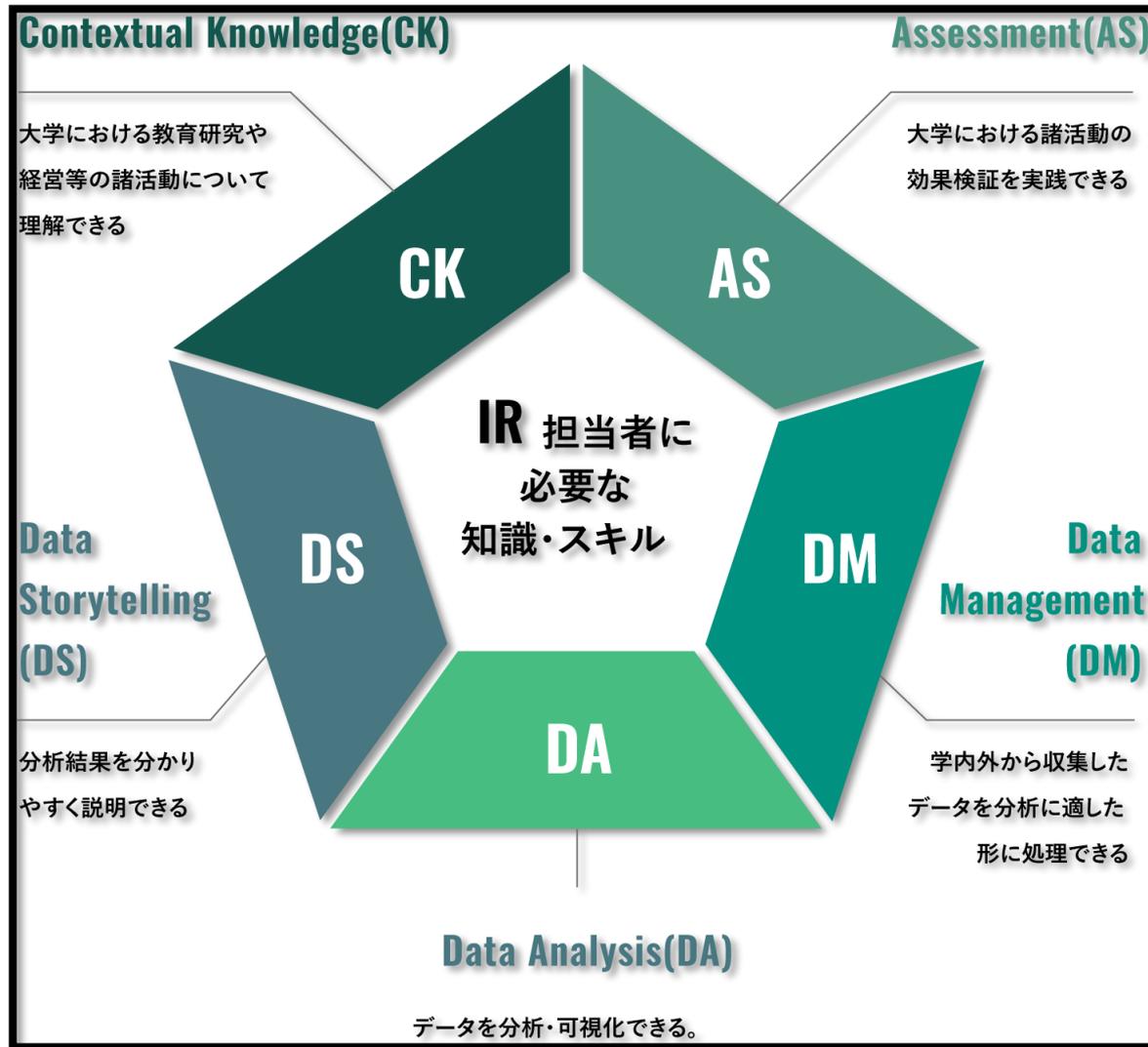
本プログラムの概要（1）

- 履修期間：6ヶ月（年に1回の開講）
- 総授業時数：60時間 + α
 - 過去の修了生に聞くと、必要な学習時間は「大学設置基準」上の「2単位」以上（米国大学の2年生レベルのクラスを想定）
- 社会人が受講しやすいように、プログラムをオンデマンド教材（講義動画）と、月に1回程度、週末に行われるリアルタイム授業のみで構成（完全オンライン）

本プログラムの概要（2）

- 受講生はプログラム終了後、**約半年間、オンデマンド教材へアクセス**することができる
 - **繰り返しの復習が可能**
- また、修了生は翌期以降も「**特別聴講生**」として、本プログラムに参加することが可能
 - 本プログラムで扱う、**ツール等は継続的にアップデート**されるため、**常に最新の情報へアクセスできる機会を提供**

本プログラムで涵養する5つの知識・スキル※



※ 日本の大学における文脈を考慮して決定しました

カリキュラム

2023年度 IR (Institutional Research) 担当者向け実践プログラム提供科目 (第5期)

科目分野	科目コード	コース番号	科目名	学習する知識・スキル (前ページ参照)				
				CK	AS	DM	DA	DS
IR 入門	IR	101	IR 入門	○	○			
IR 応用	IR	151	IR の発展過程	○				
	IR	171	明治大学における IR	○	○			
	IR	211	IE とデータ活用		○			
データマネジメント&分析 (DMA)	DMA	101	DMA 入門			○		
	DMA	102	R による データマネジメント入門			○		
	DMA	103	データ分析・可視化入門				○	
	DMA	104	レポートニング入門					○
IR 実践	IR	191	IR プロジェクト (1)			○	○	○
	IR	192	IR プロジェクト (2)			○	○	○
ゲスト講演・その他	IR	175	他大学における IR	○	○			
	IR	199	次のステージへ向けて			○	○	

注：「○」は、その科目の学習目標の中に、前ページで示した「知識・スキル」の修得が含まれていることを意味します。

本プログラムの目的

- 本プログラムは、米国の大学院におけるIR履修証明プログラムを参考に、**日本の大学の文脈**に即した「IR担当者に必要な知識・スキル」を定め、それら**知識・スキルの「基礎」**を**体系的に涵養**する

日本の大学におけるIR担当者：特に重要な技術

■ データ処理&分析に関するスキル

(**D**ata **M**anagement and **A**nalysis: DMA)

■ 理由

- **現場で扱うデータ**は、データ分析の教科書に出てくるような綺麗なデータ (Tidy Data) ではなく、**乱雑なものが多い**

■ 例：入力形式の不一致

○藤原 宏司

山形大学

山本 幸一

明治大学

○松坂 暢浩

山本美奈子

藤原宏司

山形大学

入力形式の種類

- 名字と名前の間に**半角**スペース
- 名字と名前の間に**スペースが無い**
- 名字と名前の間に**全角**スペース

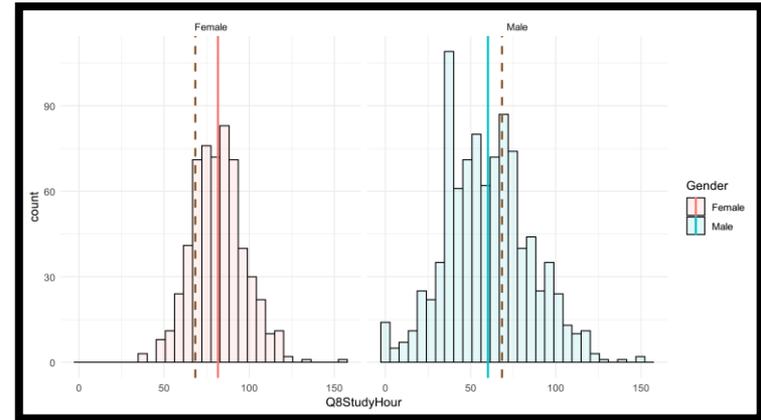
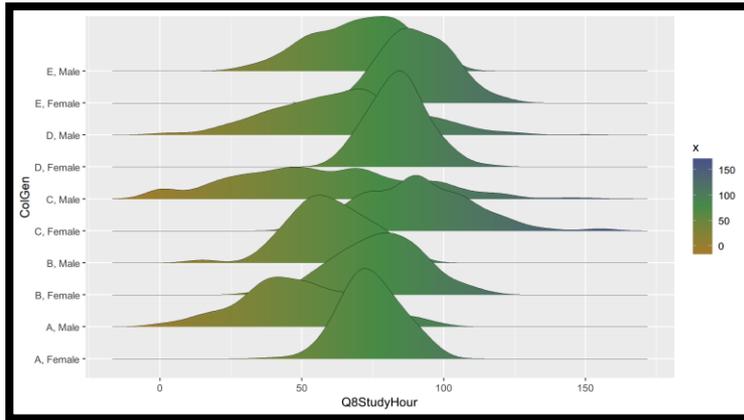
- **分析をするには、分析可能なデータを作る必要がある**

本プログラムの特徴（1）

■ 「共通データセット&分析用シナリオ」を使ったデータ分析と分析結果のプレゼンテーション

■ 利点

- 同じデータを使うことによって、自分の「データ分析」や「プレゼンテーション」の内容とクラスメイトの内容を比較できる（Peer Learning）



本プログラムの特徴（2）

- 米国の大学における「英作文クラス」の教授法を応用
(Process Writing & Multiple Drafts)

- 利点

- 「同じデータ」を繰り返し使うことによって、
データへの理解度が増し、多様な分析・グラフ作成手法等を効果的に経験・学習できる
- 「失敗から学ぶ」 & 「クラスメイトの発表から学ぶ」ことを実践できる
- “**Failure is success** if we learn from it.”
- Malcolm Forbes

プログラム修了のための評価基準

- 「IR実践」分野における「IR192: IRプロジェクト（2）」に合格すること

- IR192: IRプロジェクト（2）
 - ✓ 最終成果発表会（プレゼンテーション）

 - ✓ 評価する項目
 - ・ 「データマネジメント」スキルの修得状況（データ結合、変形等）
 - ・ 分析内容の種類
 - ・ グラフ表現の種類
 - ・ エグゼクティブ・サマリーの内容、等

今後の課題



今後の課題

- 効果的な教育効果測定（アセスメント）手法の開発
- プログラムの継続的改善
- 修了生ネットワークの構築, etc.

【将来を見据えて】プログラムの展望

- **本格的な専門職人材育成プログラムへ発展・展開**
 - 米国のIR履修証明プログラムは、**大学院レベルで15～18単位（675時間～810時間）の学習内容**を提供
 - 一方、我々のプログラムは、**学部レベルで2単位（90時間）**の内容しか提供できていない → **初級・初歩の部分のみ**

THANK YOU!

ANY QUESTIONS, COMMENTS OR SUGGESTIONS?

藤原 宏司 | Koji Fujiwara, Ph.D.

kfujiwara@cc.yamagata-u.ac.jp

山本 幸一 | Koichi Yamamoto

ma94004@mics.meiji.ac.jp

